

温泉の経年変化に関する調査

平野 温馬 宮原 典正 松田 純子

県下温泉地の源泉は年々温度、湧出量、水位及び化学成分濃度に変動を示し、温度の低下、湧出量の減少が懸念されるものも認められる。そこで、温泉の適切な管理に必要な資料を得るため、昭和56年度も実態調査を実施した。

昭和56年度の調査結果を、温泉地区別に前年度と対比して表示し、あわせて各地区の現況を略述する。

岩井温泉

55年度は総揚泉量、総採取熱量とも減少していたが、56年度は回復している。しかし、1源泉で成分濃度が大きく減少し、平均成分濃度が減少している。

鳥取温泉

昨年に続いて総揚泉量、総採取熱量及び平均温度が上昇し、成分濃度もやや増加している。

吉岡温泉

1源泉が工事のため総揚泉量20%(210ℓ/分)、総採取熱量24%、平均温度5%(2.2℃)と大きく減少しているほかは、殆ど変化はない。

湯谷温泉

総揚泉量、総採取熱量、平均温度ともに減少しているが、成分濃度に殆ど変化はない。

浜村温泉

殆ど変化はない

鹿野温泉

各源泉とも揚泉量が減少し、総揚泉量は18%、(88ℓ/分)総採取熱量19%、平均温度も2.1℃

と減少しているが、成分濃度に殆ど変化はない。

東郷温泉

揚泉中止及び調査不能源泉が6源泉あり、総揚泉量20%(261ℓ/分)、総採取熱量22%、平均温度1.3℃と大きく減少しているが、成分濃度に殆ど変化はない。

羽合温泉

工事中の1源泉を含めた全源泉の揚泉量が減少し、総揚泉量25%(585ℓ/分)、総採取熱量25%と減少しているが、平均温度、成分濃度は殆ど変化がない。

関金温泉

総揚泉量は12%(35ℓ/分)、総採取熱量は9%と増加、平均温度は1.1℃と減少しているが、成分濃度は殆ど変化がない。

三朝温泉(山田区)

塩素イオンが少し増加したほかは殆ど変化はない。

〃 (三朝区)

総揚泉量及び成分濃度に殆ど変化はないが、総採取熱量が減少したため平均温度が2.7℃と減少している。

皆生温泉

総揚泉量がわずかに増加しており、平均水位が26cmと低下しているほかは殆ど変化はない。

温泉調査結果表（昭和56年度）

温泉地	調査年度	調査源泉数	平均温度 °C	総採取熱 kcal/分	総揚水量 ℓ/分	平均水位 -m	平均比電導度 20°C× 10 ² μScm	平均Cl mg/ℓ	平均硬度 mmℓ/ℓ	
岩井	55	6	44.8	42,979	959		18.2	147	5.99	
	56	6	45.0	44,144	981		15.4	127	5.18	
鳥取	55	24	44.9	26,959	600	9.10	47.6	854	3.59	
	56	26	46.0	29,253	636	9.15	48.9	888	3.71	
吉岡	55	5	44.8	45,216	1,010		5.9	79.2	0.46	
	56	4	42.6	34,113	800		5.9	78.8	0.49	
湯谷	55	4	31.6	8,808	279		27.2	611	1.22	
	56	4	30.7	8,084	263		27.0	627	1.21	
浜村	55	27	47.4	60,839	1,286		12.5	200	1.94	
	56	25	48.9	62,058	1,269		11.9	212	1.90	
鹿野	55	7	59.9	34,447	575		11.5	267	0.48	
	56	7	57.8	28,969	487		11.1	282	0.49	
東郷	55	38	64.2	81,886	1,275		20.2	526	2.57	
	56	32	62.9	63,832	1,014		19.3	521	2.46	
羽合	55	7	55.9	128,634	2,301		21.6	604	2.46	
	56	6	55.6	96,019	1,725		21.7	621	2.71	
関金	55	16	46.9	13,968	298		5.5	101	0.32	
	56	16	45.8	15,260	333		6.1	99.8	0.32	
三朝	山田区	55	43	51.8	74,320	1,434		15.5	391	0.97
		56	43	52.3	75,042	1,435		16.2	440	1.01
	三朝区	55	38	46.2	29,958	649		12.3	282	0.67
		56	38	43.5	28,215	649		12.0	300	0.66
皆生	55	20	68.6	260,853	3,805	4.20	126	5,120	39.2	
	56	19	68.3	266,390	3,901	4.46	125	5,140	36.5	